

必ずお読みください。

複合フローリング(床暖房の場合)施工説明書

施工終了後、この説明書をお施主様にお渡しください。

天然木の性質上、保管状況、使用環境によって、反り、割れ、狂いを引き起こす場合があります。お施主様の快適な暮らしのために、必ずこの施工説明書をよくお読みいただき、商品の特徴をよくご理解の上、施工してください。
こちらは複合フローリング(床暖房対応品)を床暖房へ施工する場合の施工説明書ですのでご注意ください。

1 施工前の注意事項

●現場での保管方法

- ・直射日光や湿気の多い場所、水気のある場所での保管は避けてください。
- ・反りなどの変形を防ぐため、保管する際は梱包をしたまま、立て掛けずに平置きにして保管してください。

●商品の確認

- ・品質には万全を期しておりますが、万が一不良品や傷などがございましたら、必ず施工前にご相談ください。
- ・施工後の商品のお取替えには応じられません。

●施工箇所について

- ・湿気の多い場所への施工ですが、十分な対策を施せない場合は施工しないでください。(地下室・湿地帯など)
- ・床下換気が十分に行われており、換気口などの換気設備が整っていることを確認してください。
(建築基準法令：外壁の床下部に壁長さ5m以下ごとに300mm以上の換気口設置)
※床下の換気が不十分な場合、施工後に「暴れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生します。
- ・床下コンクリートや合板など、下地が完全に乾燥していない場合は施工しないでください。
- ・雨天など湿気の多い環境下では施工をお控えください。

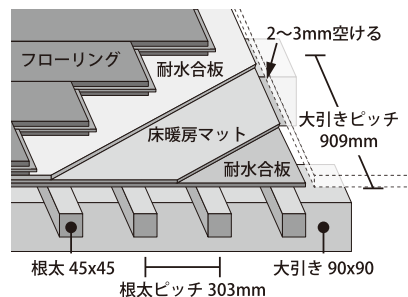
●その他の注意事項

- ・床暖房に対応していない複合フローリングは、床暖房に使用しないでください。
- ・フローリングは開封後すぐに施工しても問題はありません。
- ・雨天など湿気の多い環境下では施工を控えてください。

2 下地加工

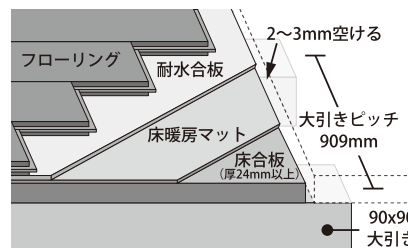
●捨て貼り工法

- ・大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用しプレーナーで平滑に仕上げてください。
- ・大引き間隔は909mm、根太は303mmとし、水平レベルで施工してください。
床暖房の下地材には、厚さ12mm以上の耐水合板を使用してください。
- ・フローリングと床暖房の間には厚さ5.5mm以上の耐水合板を使用し、段差がないように施工してください。
- ・床暖房マット面は段差がないように施工してください。



●ネダレス工法

- ・大引きは90mm角以上の乾燥材を使用しプレーナーで平滑に仕上げてください。
- ・大引き間隔は909mmとし、水平レベルで施工してください。
- ・床暖房の下地材には、厚さ24mm以上の床合板を使用してください。
- ・フローリングと床暖房の間には厚さ5.5mm以上の耐水合板を使用し、段差がないように施工してください。
- ・床暖房マット面は段差がないように施工してください。



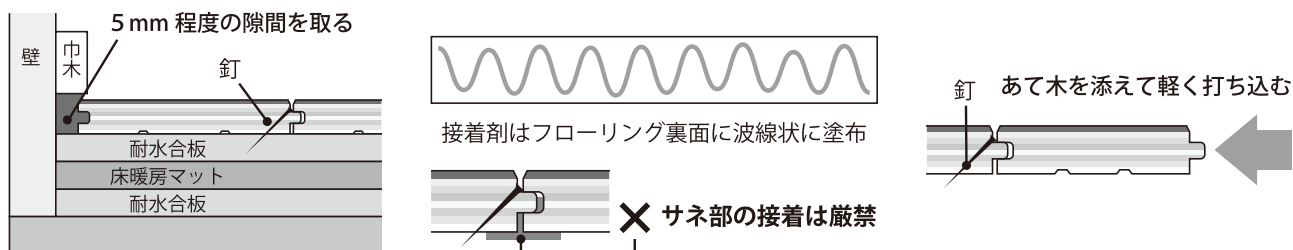
3 仮並べ

- ・天然木を使用したフローリングのため、木目や色が1枚1枚異なります。ケースによっても違いがありますので、いくつか開梱し必ず仮並べをして全体のバランスを確認してください。



仮並べでバランス確認

4 フローリングの貼り込み

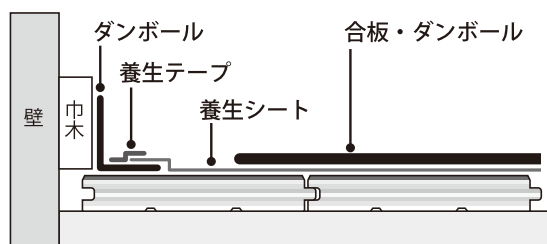


- ・フローリングは床暖房マットの小根太と直行するようにし、また小根太部分にフローリング短辺の継ぎ目が来るように配置してください。
- ・壁際や敷居、框などの納まりは必ず5mm程度の隙間を取り、必要に応じてコーキング処理などを行ってください。
- ・貼り込みの際に、サネが軽く突き当たる程度にはめ込んでください。突き上げの原因になりますので、強く叩き込むことはしないでください。スペーサーは不要です。
- ・施工は必ず接着剤と釘併用で行ってください。
- ・接着剤は「木質フロア用」のウレタン樹脂系の接着剤(推奨: コニシKU928C)をご使用ください。木工用ボンドなどは硬化し床鳴りの原因になりますので使用しないでください。また接着剤は床暖房マット接着部にしっかりと塗布し、サネ部分に接着剤が入らないよう十分注意してください。接着後はフローリングをしっかりと圧着してください。
- ・釘は40mm以上のフローリング用スクリーンネイルまたはフロアステーブルを使用し、釘打ち部分全ての雄サネに打ち込んでください。その際サネが割れないようにご注意ください。
- ・以上を含めまして、それぞれの床暖房メーカーの施工要領に従って施工してください。

5 貼り込み後の注意事項

● 養生について

- ・養生をする前には細かいごみを完全に除去してから行ってください。表面への傷の原因となります。
- ・養生シートを敷き、その上に合板やダンボールを敷いてフローリングをしっかりと保護してください。
- ・養生テープはフローリングに直接貼らないでください。塗装の剥がれや表面を傷付ける可能性があります。接着する部分にダンボールなどを敷き、その上に養生テープを貼ってください。フローリング全面を覆うように養生してください。一部が露出していると、日焼けにより他の部分と色差が生じたり、目地などに埃やチリが入り取れなくなる場合がありますので注意してください。
- ・湿気の多い時期など、室内の換気は十分にとってください。



● クリーニングについて

- ・ほうきや掃除機で埃などを取り除き、汚れが付いている場合は固く絞った雑巾で拭き取ってください。水拭きする際は水分がフローリングの隙間に入らないよう、しっかりと絞ってから拭いてください。また、水拭き後も水分が残らないようしっかりと拭き取ってください。
- ・ワックスや洗剤等は使用しないでください。塗膜の破壊、ツヤの変化、突き上げなどの原因となります。

6 免責事項

- ・施工方法はあくまでも一般的な事例を紹介しております。当社はこれに基づく設計・施工上の不備に対して一切の責任は負いかねますのでご了承ください。
- ・納品時に不良品や欠陥商品があった場合は、欠陥商品の交換をさせていただきます。既に加工・施工済みの商品については交換できませんのでご確認の上、施工願います。
- ・天然木フローリングの為、使用環境によっては膨脹収縮による反り、割れ、ねじれ、突き上げ、隙間などが生じる場合があります。これらのトラブルは返品の対象にはなりません。
- ・天然木の為、色調、柄などの違い、経年劣化による日焼けなどは返品の対象にはなりません。
- ・上記の事由による補修、貼替え工事などの費用の返済は行われません。但し、当社の商品が直接の原因とされる場合にはこの限りではございませんので、ご相談ください。
- ・施工、又は使用を決定される前にお施主様に天然木の性質(長所/短所)を十分説明、理解していただいた上でご使用ください。

お施主様へ フローリングのお手入れ方法と日常生活での注意ポイント

フローリングのお手入れ方法

■ フローリングのお手入れの基本

- 日頃のお手入れは、掃除機と乾いた雑巾での乾拭きで十分です。

床表面のゴミやホコリを掃除機やホウキで取り除きます。隙間に入ったゴミやホコリは楊枝などで取り除きます。乾いた雑巾やモップで乾拭きをします。

- 水を使わないようにお手入れをしてください。

フローリングは水分に弱く、水分によりひび割れや黒ずみ、膨張が発生する場合がありますので、水拭きでのお手入れは避けてください。しかし、乾拭きだけでは落ちない汚れもあります。その場合は、雑巾を水に濡らし、固く絞ってから拭き取り、その後、再度乾拭きをしてください。それでも落ちない場合は、中性洗剤を含ませ固く絞った雑巾で拭き取ります。洗剤を使用した場合は、洗剤成分が残らないように、水に濡らして固く絞った雑巾で拭き取ってください。

- ・ 洗剤や薬品等をご使用になる際は、必ず使用上の注意をよく読み、目立たないところで試してからお使いください。
- ・ 化学雑巾をフローリングの上に長時間放置すると、フローリングが変色する場合があります。
- ・ スチームモップ、スチーム掃除機の使用は避けてください。膨張や白濁の原因となります。
- ・ 不織布タイプのモップ（ワイパー）を使用した場合、繊維がフローリングに引っかかる場合がありますので、ご注意ください。
- ・ アルコールやシンナーなどは塗装面を痛めますので、使用を避けてください。

■ 自然塗装フローリングのお手入れ

自然塗装は塗料をフローリングの表面から内部に浸透させて保護しています。木の質感を活かした塗装方法ですが、塗膜を作らないので傷や汚れがつきやすくなります。自然塗装フローリングの場合は、年に一度、再塗装を行うことで、汚れをつきにくくし、ツヤも出て長く美しさを保つことができます。

- ・ 気になる汚れがある場合は、専用ワックスクリナーなどを使用して汚れを拭き取ります。
- ・ 汚れがひどい時は、#180程度のサンドペーパーで汚れやシミを削り取り、#240~320のサンドペーパーで徐々に細かい目のサンドペーパーを用いながら表面を整え、削った箇所を再塗装します。
- ・ 塗装の際は塗り過ぎにご注意ください。フローリングに浸透する塗料の量には限度があるため、塗りすぎるとベタツキの原因となり、汚れがつきやすくなってしまいます。
- ・ 塗装に使用した布は、まれに自然発火する可能性があります。十分に水に濡らしてから処分してください。
- ・ 塗装時、塗装後は換気を十分に行ってください。
- ・ UV（ウレタン）塗装用のワックスをかけると、毛羽立ちやシミの原因になります。ご使用はお控えください。

● 自然塗装に関する注意事項

自然塗装とはオイル成分を木に含浸させる塗装方法で、質感や表情を楽しむためのものだとお考えください。UV（ウレタン）塗装は木の表面に塗膜を形成する塗装方法で、その塗膜が保護膜となり、汚れを付着しにくくします。塗膜を形成しない自然塗装は水分や油の飛び跳ねから完全に保護するものではありません。水分や油の飛び跳ねが発生した場合、直ぐに拭き取らず放置していると染みの原因になる場合があります。キッチンや脱衣所など水周りでの使用には十分な注意が必要です。使用環境、自然塗装の特性をご理解の上ご使用ください。

■ UV塗装フローリングのお手入れ

ウレタン系合成樹脂の薄い膜を張る塗装をしています。表面がコーティングされているので、汚れがつきにくく、お手入れしやすいものとされています。表面が塗膜で覆われているとはいえ、素材は木材ですので過度な水拭きはお勧めしません。

- ・ メラミンスポンジなどは、塗装が剥がれる可能性があります。ご注意ください。
- ・ ワックスをかける場合は、無垢材に使用できる製品かどうかを確認し、ワックスの「取扱説明書」をよく読んでからご使用ください。塗装の際には、目立たない所で試し塗りし、厚塗りにならないようご注意ください。
- ・ UV 塗装に付いた傷の補修は難しいため、ご自身でのメンテナンスは避けて、専門業者に依頼されることをお勧めします。

■ 無塗装フローリングのお手入れ

何も塗装を施さないフローリングです。汚れがつくと染み込み、落とすことが困難になります。

- ・ 汚れが付きやすいので、きれいな雑巾をご使用ください。
- ・ 水拭きをする際に、絞りが十分でないとフローリングが水分を吸って表面がざらつき、毛羽立ちやムラの原因になります。
- ・ こすりすぎると表面がささくれ立つのでご注意ください。・ 汗などが垂れるとシミの原因になるので、夏場は特にご注意ください。
- ・ 塗装を行っている場合は、ご使用の塗料（ワックス）の「取扱説明書」をよく読んでからご使用ください。

日常生活での注意ポイント

- **水まわり・窓際** 基本的にフローリングは水気を嫌うという性質を念頭に入れてください。「すぐに拭く」が、綺麗なフローリングを長持ちさせる秘訣です。フローリングを長時間濡れたままで放置すると、シミや変色、ヒビ割れ等の原因となります。キッチンや洗面所などの水まわり、水が飛び散りやすい場所では、マットを敷くなどして保護してください。窓からの雨の吹き込み、結露による水滴にもご注意ください。
- **マット・カーペット** カーペットや保護マット、玄関マットなどをフローリングに固定する際に粘着テープ（ガムテープ・両面テープ）を使用すると剥がす時にフローリング表面を傷める場合があります。フローリングに接する面に通気性のないマットを長期間そのまま使用すると、変色やシミの原因となります。裏面に滑り止め加工を施したマットなどを使用した場合は、裏面材の成分が溶け出して、表面に付着したり、変色や艶ムラの原因となる場合があります。湿気がこもるような寝具や水まわりでマットを使用の場合には、定期的に乾かしたり、位置をずらすなどして湿気がこもらないようにしてください。
- **砂・室内用履物** 外部からの砂やスリッパ等の室内用履物の裏面に付着した異物は、フローリング表面の傷や汚れの原因になります。砂や異物を取り除いてご使用ください。
- **薬品類・調味料** 薬品やアルカリ性洗剤、酸性洗剤、灯油などをこぼすと表面や目地が変色する場合があります。醤油やコーヒー、カレーなど染色性の強い食品をこぼしたまま時間を置くと、染まってしまうシミが取れなくなります。こぼした場合はすぐに固く絞ったぞうきんで拭き取ってください。毛染め液や靴墨などによる汚れは取れませんので、使用する際には保護カバーを敷くなど対策をしてください。
- **ホットカーペット** フローリングの上に直接ホットカーペットを使用すると、フローリングとの間に熱がこもり、ヒビ割れや隙間の原因となります。ホットカーペットをご使用になる場合は、フローリングに直接熱が伝わらないよう断熱性のあるシートやカーペット、マットを敷くなど対策をしてご使用ください。
- **キャスター付きイス** キャスター付きのイスや家具類を直接使用すると、フローリング表面の傷や破損の原因となります。必ずカーペットなどを敷いてフローリング表面を保護してください。家具やイスなどを引きずると傷をつける原因になります。カーペットを敷いたり、脚部にフェルトを貼るなどして保護してください。
- **ペット** ペットの排泄物や唾液をこぼしたままにすると、アンモニア成分などにより、水濡れ以上にシミ、変色などの可能性が高まります。すぐに拭き取ってください。ペットのトイレ周辺には保護マットを敷き、排泄物がフローリングにかからないようにしてください。また、ツメによりフローリング表面を傷つける場合もありますのでご注意ください。
- **観葉植物** 観葉植物等の鉢には、必ず水受け用の皿などを敷いてください。長期間同じ場所に置かず、定期的に位置をずらすようにしてください。
- **直射日光** 直射日光が日常的に当たることで変色やヒビ割れの原因となります。カーテンやブラインドなどでフローリングに直射日光が当たらないように注意してください。光の当たりやすい場所と当たらない場所で色ムラが生じることがあります。
- **エアコン・加湿器** エアコンを長時間使用すると室内の乾燥が進み、隙間が開いたり、表面にヒビ割れを生じることがあります。加湿器などで室内を適度な湿度に保つようにしてください。加湿器を使用する際には、吹き出し口の向きにご注意ください。直接フローリングの方に向いたり、水滴が垂れることで、変色やヒビ割れを起こす場合があります。
- **暖房器具** 温風ヒーターの熱風や、反射式ストーブの熱気などが直接フローリング表面に当たり続けると、変色やヒビ割れの原因となります。向きの調整やマットを敷くなどをして、フローリングを保護してください。
- **重量物** ピアノや冷蔵庫などの重量物を置く場合には、脚部に保護板などの緩衝材を敷いて、重量を分散させるようにしてください。移動させる場合は、フローリングの凹みや傷の原因になりますので、引きずらず、必ず持ち上げた状態で行ってください。

天然木の持つ豊かな表情が最大の魅力です。時と共に増していく風合いの変化もお楽しみください。